
 学 会 記 事

第 40 回新潟糖尿病談話会

日 時 平成 23 年 2 月 5 日 (土)
午後 2 時～午後 6 時
会 場 朱鷺メッセ 3 階 中会議室 301

I. 一 般 演 題

1 糖尿病網膜症患者への心療眼科的アプローチ

安藤 伸朗

済生会新潟第二病院眼科

【背景】心療眼科とは、眼疾患をメンタルケアの観点から研究する学問で、我が国では 2007 に研究会が発足した。今回、糖尿病患者の抑うつ状況を、視力の優劣に分けて検討した。

【対象】2009 年 6 月 9 日～15 日、当科外来を受診した糖尿病患者 (94 名)、矯正視力により視力良好群 80 名 (視力良好眼の視力が 0.5 以上) と視力不良群 14 名 (視力良好眼の視力が 0.5 未満) に分けた。

【方法】疫学的うつ病評価尺度 (CES-D : center for epidemiologic studies depression scale) を自己記入方式で施行。疫学的うつ病評価尺度 (CES-D) で評価。各群の CesD 平均値と、深刻な抑うつ症状をあらわす CES-D16 点以上を評価した。

【結果】視力良好群と視力不良群の CesD 平均値は、12.56 ± SD8.22, 15.21 ± SD3.75 であり、視力良好群で低値を示した。深刻な抑うつ症状 (合計 16 点以上) を示したのは、視力良好 80 名中 13 名 (16%)、視力不良 14 名中 7 名 (50%) であった ($p < 0.05$)。

【結論】糖尿病患者は、視力の良し悪しは、抑うつ症状に影響する。

2 糖尿病患者教育にエンパワーメントアプローチを導入して

～患者が自分を奮い立たせるために抱く思い～

土田 幸江・落合 節子

県立吉田病院看護部

【目的】エンパワーメントアプローチとして、「患者自らが生きるために自分を奮い立たせる思い (以下思い)」を語る機会を患者教育に組み込んだプロセスから明らかになった患者の思いと看護を報告する。

【対象と方法】糖尿病入院患者 15 名に石井のエンパワーメント質問紙を参考に半構成的面接を行い、内容分析で類似性のあるデータを分類し、カテゴリ名を付けた。

【結果】対象者は 50～80 歳の男性 6 名、女性 9 名だった。思いは次の 4 つのカテゴリが抽出された。

表 1 自分を奮い立たせるために抱く思い

大カテゴリ	中カテゴリ
合併症の脅威の自覚	合併症を起こすのではないかと という不安 合併症で変化する体への恐怖 合併症による死への恐怖
療養生活を継続する困難さ	食事療法を守る難しさ 他者の助けが必要な療養生活
良くなりたいと前向きに思う気持ち	療養生活を続ける意思の表明 これ以上悪くならない気持ち
家族との絆	家族に心配をかけたくない気持ち 家族を支えたい気持ち

【結論】患者の思いは 4 つのカテゴリに抽出された。医療者のパートナーシップで患者教育にエンパワーメントアプローチとして、現在の生活を軸に自分の思いを語り、療養生活を自ら構築できる力を引き出すケアが有効である。